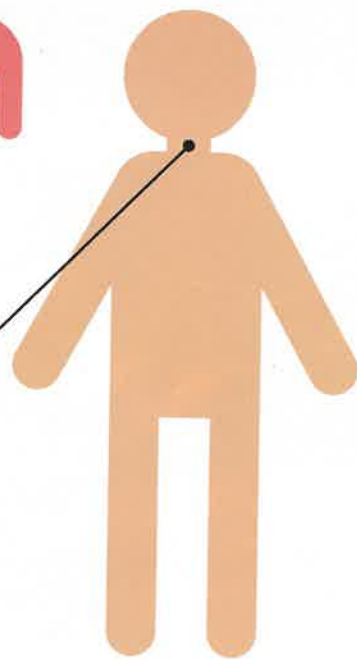


臓器のはなし



ひやく にち ぜき
今月は **百日咳**

感染力が非常に高い
安静・休養と栄養で回復へ

読んで字の如し
強い咳が長く続く

2025年、百日咳が爆発的に流行しました。7月時点での年間・累計患者数が、過去7年間の水準を大きく上回っています(下グラフ)。

この百日咳は、感染症です。ただインフルエンザやコロナとは異なり、ウイルスが原因ではありません。百日

咳菌という細菌で、体内に入ると気道の粘膜に感染して毒素を放出、咳の発作を引き起こします。

初期の段階では微熱、くしゃみ、鼻水など、風邪に似た軽い症状が出ます。しだいに風邪のときよりも激しい咳が出て、その名のとおり長い期間にわたって続くのが特徴。喘息のようなヒューヒューという呼吸音があることもあります。激しく咳き込んだあとに腹圧が上がり胃が圧迫され、嘔吐するケースも。

百日咳は、免疫力が十分に備わっていない子どもの病気というイメージがありますが、感染力は非常に高く、子どもから大人にうつるケースも少なくありません。実際、私が診ている患者さんのなかにも、お孫さんから百日咳をつつされた方が何人もいました。

死亡に至るケースは極めて稀(まれ)成人の致死率は0.01%程度)ですが、高齢者や基礎疾患を持つ方の重症リスクは高まるでしょう。

**食事と水分補給も大事
お孫さんから感染も**

百日咳・流行の原因については、2

つの理由が考えられると思います。

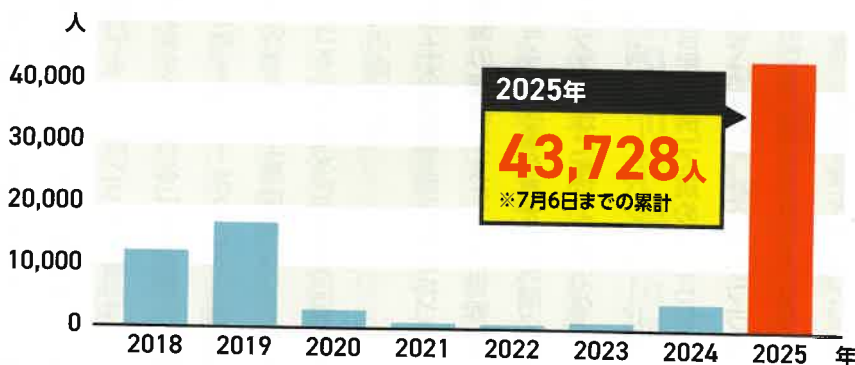
1つは季節性や環境要因。特に冬の乾燥した環境下では菌の生存率が高まり、感染リスクが増大したため。

2つ目は免疫力の低下。夏の厳しい暑さが、気づかないうちに身体に大きな負担をかけ、体調を崩せば、免疫力が落ちます。さらにコロナ禍に外での活動が減ったことも体力低下につながり、免疫力が下がる遠因になったかもしれません。

抗生物質で菌を死滅させる治療法が一般的です。咳の症状を和らげるために、咳止め薬が使用されることも。咳以外の症状の発熱には解熱剤、喉の痛みには鎮痛薬を組み合わせて服用します。薬を飲みながら安静にすれば(食事による栄養補給も)、徐々に咳が治まるはず。喉の乾燥は気道への刺激になり、咳につながるため、こまめな水分補給もお忘れなく。

子どもたちの間で流行する感染症は、病院に入り、やがて大人に波及していくものです。これは百日咳だけでなく、はしか、風疹なども同じ。特に高齢者の方は、お孫さんからの感染に気をつけてください。

百日咳の累計患者数



資料：国立健康危機管理研究機構「感染症情報」

監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。